

キュウリ黄化えそ病抵抗性を有する キュウリ新品種「緑夏」

キュウリ黄化えそ病は、ミナミキイロアザミウマによって媒介されるメロン黄化えそウイルス (*Melon yellow spot virus*; MYSV) によるウイルス病で、関東以西のキュウリ産地に深刻な被害を及ぼしています。MYSV に感染したキュウリは葉にモザイク、退緑斑点、黄化、えそなどの症状を示し、加えて、一部の果実にも退緑斑点やモザイクなどの症状を生じ、収量低下と商品果率低下が問題になるため、生産者から抵抗性品種の育成が強く求められていました。そこで、農研機構は (株) 埼玉原種育成会と共同で、キュウリ黄化えそ病抵抗性をもつ新品種「緑夏」を育成しましたので、その概要を紹介します。

☆ 技術の概要

1. 「緑夏」は MYSV に感染した場合でも病徴が軽微で(図)、収量低下を抑えることができます。
2. 「緑夏」の節間および葉身は長く、8~9月播きでの主枝の雌花着生率は20~30%程度で側枝の発生は旺盛です。果実形質は従来品種の「極光 607」と同程度に優れ、褐斑病抵抗性を有しています。
3. 「緑夏」は抑制栽培での摘心栽培に適します。



図 「緑夏」の果実(左)とMYSVを接種した植物体の葉(「緑夏」の葉(中央)、罹病性品種「極光 607」の葉(右))

☆ 活用面での留意点

1. 「緑夏」は MYSV に感染し、感染源になり得ることから、媒介虫であるミナミキイロアザミウマの防除に努めてください。
2. 「緑夏」の果実に激しいモザイク症状を生じさせる MYSV 株も存在するため、このような MYSV 株が多発している地域での栽培には適しません。
3. 詳しいことは、農研機構のお問い合わせフォームをご利用ください。
(<https://prd.form.naro.go.jp/form/pub/naro01/research>)